

岩の殿堂360度の大パノラマ 瑞 牆 山

実施日 2023年4月27(木)～28日(金)
 天 候 晴れ
 リーダー 宮崎敏男
 参加者 宮崎敏男、佐藤聡美 計2名
 費用 私有車：八王子⇄瑞牆山登山口
 3,500円(人)前泊宿泊料：10,500円(2食付き) 合計@14,000円
 タイム 4/27 八王子(7:30)広河原P
 (10:30)甘利山(昼食・休憩)広河原P(12:30)
 瑞牆山荘(15:00)泊
 4/28 登山口(7:20)富士見平小屋(8:00)桃太郎岩(9:00)
 瑞牆山(10:30~11:30・昼食・休憩)瑞牆山荘前着(14:00~30)武田乃里白山温泉
 経由・葦崎IC~八王子IC~八王子駅(19:30)

参加者少数のためまた現地のバスの便も悪ことを考慮して、車で現地へ。初日は集合だけだったが勿体ないので甘利山(1,731m)へ。甲州武田の里からの富士山は高かった、美しかった。翌日の登山のため脚はあまり使わず山頂の景観と、談合坂SAで調達の甲斐(B級)グルメ「田舎風豚まんじゅう」等おいしい昼食を楽しんだ。

その昔56年前、新宿からすし詰め鈍行夜行列車で葦崎へ。バスは増富ラジウム鉱泉迄。登山はそこから始まった(山荘主との会話から)今、特急

が走り。バス・マイカーは登山口のある里宮平へ。そこには130台の大駐車場がある。

登山道はミズナラの広葉樹林の道から始まり。最初緩やかに、そのうち勾配を強め、高度を上げて行く。やがて



樹林帯を超越した岩の殿堂瑞牆山が姿を現わす。圧倒的岩峰群が迫力をもって我等に迫る。そこから富士見平小屋まではわずか。

小屋前のサイトには10基ほどのテントが設営されていた。ここをベースに初日は金峰山へ、2日目は瑞牆山を目指すという若者。鍛錬の為テントは背負ったまま金峰へ向かう若者。奥多摩まで長躯縦走するベテラン等。流石百名山、若い人中心に登山者は多い。

ここは金峰、瑞牆への登山道の分岐点だ。

登山道を左に分け山腹をトラバース気味にアップ・ダウンすると天鳥川出合に到達。



沢に入ると登山路は奇岩怪石ゴロゴロの難路に変わる。巨岩が真二つに割れた桃太郎岩を流木、枯木の突っかい棒が支える姿がユーモラスだ。

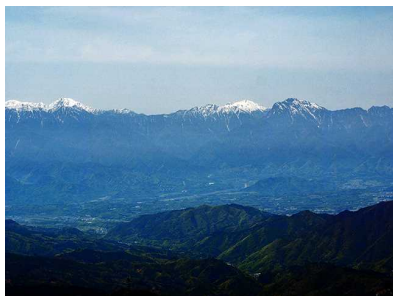
やがて岩だらけの登山路にハシゴ・ロープ・鎖が連続して現れる。よじ登り、這い上がりして進む。

この山ははじめちょろちょろ（緩やかで優しく）なかばっぱ（急登峻嶮）で入門から本格登山までの要素を備えていられると言われているのがうなずける。やがて頭上にひときわ目立つ大ヤスリ岩が現れる。これをやっつければもう山頂かと思いきや現れた山頂岩峰群。不動沢コースの道も合流し山頂を目指す。山頂北側の残雪と凍結の残る道をひやひやしながらひと登りして瑞牆山山頂に到達だ。今年はやかまはしい日が続いたので残雪凍結も例年より少なく、おかげで参のアイゼンが



ですんだのはラッキーだった。瑞牆山の山頂は花崗岩の岩盤で覆われているが、至る所に割れ目、傾きがあり、先端は断崖絶壁の為、眺望も撮影も昼めしも油断がならない。だが、その展望は危険を忘れてしま

うほど素晴らしかった。東南に金峰山・奥秩父。富士は春霞に浮かび。



南には鳳凰三山・甲斐駒・白根三山。西に八ヶ岳連峰。今日はそのすべてを惜しみなくクッキリと見せている。

山頂での安らぎを堪能し、さあ下山だ。



下山はすべりやすく、足元も見えづらくなり、足、膝へのダメージも大きい。カ

メラ、ポーチ、スマフォ等もしっかり収納し正味2時間半の下山路を安全なものにして、無事下山。有名な増富ラジウム鉱泉の増富の湯が改修工事の為休業だったのは残念。佐藤さんが見つけた茅ヶ岳・八ヶ岳眺望の武田乃里白山温泉へ立ち寄り山行の汗を流した。あと中央高速まっしぐら八王子駅へ帰路を急いだ。おつかれさまでした

(記&写真・宮崎 敏男)

私の山行ひと言

佐藤聡美

大やすり岩を眼下に金峰山、鳳凰三山、八ヶ岳と見渡せ、険しい登りを頑張って登ってよかったです。不安定な春の天気の間合の晴れに当たり！雨上がりの清々しい空気でした。

恵まれた山行に感謝感謝です。